



大規模災害に備えて

1月15日に南太平洋トンガで発生した海底火山の大規模噴火は大量の火山灰やガスを噴き上げるとともに、はるか8,000キロも離れた日本列島でも大きな潮位変化を生じさせました。

翌日の未明に出された津波警報などに不安な時間を過ごされた皆様も多くいらしたと思います。本当に災害はいつ起きるか分かりません。

そのため、市では、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で、2月5日と6日の二日にわたり、職員による「災害対策本部設置運営訓練」を実施いたしました。

今回の訓練は、5日の朝8時30分に上尾市を含む関東平野北西縁断層帯を震源とした深さ20km、マグニチュード8.1の直下型地震が生じ、市内の最大震度は7を観測したと想定しました。

発災直後から、火災の発生は、児童・園児の安全は、病院の受入状況は、と被害状況等が次々と報告され、その対応に追われます。加えて、SNSを通じた不確かな情報の取り扱いも混乱に拍車をかけます。

翌日には、人的・建物被害に加え、電気やガス、水道といったライフラインの被害の全容と復旧状況も明らかとなります。

今回は、震災直後からの災害対策本部設置と、発災事案への対応を再現する訓練でしたが、被害が甚大な場合は、地域全体に行政の支援が行き渡らないことも考えられます。それだけに、地域の皆さまの力が不可欠であることから、今後は自主防災会、防災士会をはじめ、地域の皆さまと連携した訓練を行い、災害に強い上尾市を目指してまいります。



災害対策本部長あいさつ

市長 富山 稔